

市民の方からのお問い合わせから

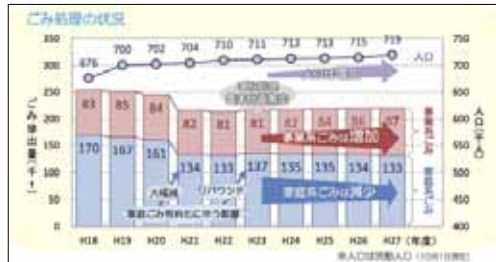
☆後楽園への鶴見橋（車道部分）の老朽化

「どうにかならぬか」放映で知ったのですがお問い合わせがありました。さっそく見に行くと、確かに後楽園への玄関口にふさわしくない状態です。岡山市担当課によると、すでに修繕計画に乗って、2018、2019年度で、高欄の欠けているコンクリートの修復・全面塗装などをするそうです。



☆家庭系有料ごみ袋料金の使途

「有料ごみ袋料金の使途は？」とご質問がありました。2016年度の場合、約9億900万円の料金（手数料）が入り、有料化経費（ごみ袋製造費など）に約3億1700万円、環境施策拡充（ごみステーション関係経費など不法投棄・不適正排出対策、広報・啓発、資源化対策推進、地球温暖化対策推進、環境保全推進など）に6億6,500万円が使われています。家庭ごみについて、排出量及び一人当たり1日のごみ量は、有料化前の2007年度（約16.7万t、657g）から2016年度（約13万t、503g）と減っていますが、全国的にみると平均には届いていません。さらなる努力が必要です。グラフは「岡山市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」より。



こんなスポット／「高松市平和記念館」

☆「子どもたちを連れてまた来たい」と思わせる、子ども目線でつくられたビジュアル的にも工夫のある施設です。高松市内のすべての小学校4年生が行う「こども未来館学習」と連携して、平和記念館での平和学習が行われます。教育委員会がバスを仕立ててくださるとのことです。(087-833-2211)



編集後記★ 春は新スタートの季節。卒業式・入学式での子どもたちの期待と緊張の表情に、皆さんが自分らしく育つ環境をと身が引き締まります。毎年、感動するのが、津島小の吹奏楽部と津島グリーンコーラスの卒業コンサート。皆さんの成長は眩しいばかりです。



※鬼木のぞみの活動日誌は、ブログ・フェイスブックをご覧ください。 http://yaplog.jp/niji_oni/ 携帯でもどうぞ。

のぞみ日誌から

京山地区 ESD フェスティバル

保育園・幼稚園から大学、地域の皆さんでつくりあげるフェスティバル（1.27～28）。「京山ESD・SDGs対話」では、市長・教育長etc.に小中高生が、ポイントをつけて防災・農業・地域課題などを投げかけました。多彩なプログラムのなかで、誰もが楽しみ学び、地域をよりよくするプロセスに参加できます。

「ワトト・コンサート」は大成功

アフリカのウガンダからの小さな友人たちによる「ワトト・コンサート」（2.3）。1,600人の皆さんが岡山武道館を埋め尽くしました。岡山では3回目。内戦やエイズで両親をなくした子どもたちが、ワトト村で心と体を回復し、希望と目標をもって生きていく姿に世代をこえて今回も感銘をうけました。



第1回岡山市立公民館大会

第1回岡山市立公民館大会に参加をしました（2.12）。この4月から中央公民館廃止（公民館振興室設置）という大きな節目を前に多くの方の参加がありました。基調講演の佐藤一子さん（東京大学名誉教授）のお話が素晴らしかったです。



津島福居のいきいきサロン福寿会

毎回工夫のある福居のいきいきサロン福寿会。2月は、中村幸伸院長（つばさクリニック）による「いつまでも住み慣れた場所で過ごすために～在宅医療の取り組みについて～」でした（2.15）。多くの方の参加でぎゅうぎゅう状態の公会堂。皆さん、うなずきながら聞いておられました。

3月8日は「国際女性デー」

岡山市内でも記念企画があり、二つに参加。①望月衣塑子さん講演会（3.11。写真）。望月さんは東京新聞記者。信念をもってとことん頑張られています。②シンポジウム「世界にはばたく岡山の女性たち」（3.12）。シンポジストは岡山出身で国際体験のある中高大社会人の若い世代。未来は明るいと思えました。



岡山市議会議員

会派：市民ネット

No.44

2018年2月議会報告

おにきのぞみ

虹色通信

2018年4月発行



事務所 〒700-0971 岡山市北区野田5丁目8-11 かつらぎ野田ビル2F
TEL 086-244-7721 FAX 086-244-7724
自宅 岡山市北区津島福居2-16-12-2 TEL/FAX 086-254-5262
Email:hopequal@po7.oninet.ne.jp http://yaplog.jp/niji_oni/



安心と希望のまちづくりを ～キーワードは「顔がみえる」つながり～

春うらかな4月。フィリピン・ネグロス島から友人二人（写真）が岡山にやってきました。日本とフィリピンをつなぐ黒砂糖とバナナのフェアトレードのベースをつくったチータさんと、循環型有機農業を実践しながら青年を育てるカネシゲ農場スタッフの若きリーダーであるジョネルさんです。

この黒砂糖を使ったお菓子づくりをする工房や、そのおやつを食べている放課後児童クラブを訪ねたり、地域おこし協力隊卒業生ががんばっている地域を訪問しました。出会いを喜びあい、例えば2人は、真庭市での目に見える「循環型社会」の実践に大きな学びを得たようです。

私はネグロスの人たちと交流し支え合う活動を30年余りしてきました。キーワードは「顔がみえる」つながりです。お互いの存在が、希望と安心につながる刺激・実感が嬉しいです。



安心の産前産後相談ステーション増設

岡山市は2016年9月に「おかやま産前産後相談ステーション」を岡山市保健福祉会館内にオープンしました。助産師などの専門職員が常駐し、妊娠から産後1年未満のママと赤ちゃん、ご家族の相談に応じています。北

区役所に妊娠届けにこられた方はこのステーションに導かれ、助産師さんと「顔のみえる」なかでつながります。核家族化など社会状況が変わるなかで育児支援に工夫が必要です。

この秋には、すべての保健センター（6ヶ所）にステーションが開設されることになり、すべての妊婦さんを対象に切れ目のない支援が行われます。安心の源が増えて嬉しいですが、少なくとも就学前までを対象とすべきです。

交通・移動の権利の確保を

両備バスグループによる赤字幅の大きい31バス路線を廃止するという突然の発表は大きな不安と波紋をうみました。廃止届は撤回されましたが、地域公共交通が交通事業者の採算性だけで取りざたされてよいのかと投げかけられました。私は議会質問戦を聞

くなかで、岡山市の地域公共交通予算は市全体のわずか0.03%（2016年度）であり、中核市平均の1/5であることを知りました。移動が確保されると「顔のみえる」つながりが豊かになります。高齢社会を迎えて、公共交通や移動困難な人へのサービスなど地域交通についてみんなで議論し、形にしていきたいです。

おにき・のぞみ



*「フェアトレード」とは、商品を搾取のない適正な価格で取引をする、公正（フェア）な取引のことです。

*4月に操山公民館がオープンし、全中学校区に公民館が配置されました。中央公民館は廃止され、機能・役割は公民館振興室に受け継がれました。公民館がより充実したものになるよう求めていきます。

2月議会 個人質問から

質問項目

1. 案内サインと観光
2. 就学前教育と多文化共生
3. イノシシ・中山間地域
4. 岡山北斎場（新斎場）



2018年4月に政令市移行10年目を迎えた岡山市。2018年度一般会計は過去最大の3,172億円です。☆2月議会で多かったのは、公共交通への質問（路面電車の駅前乗り入れ、環状化・延伸化。バス路線。吉備線LRT化など）。☆また、今年度の認可保育園への未入園児童は、昨年度の1,495人と水準とのことです。仕事を断念された方の話を聞き、定員増と保育士確保に全力を注がなくてはなりません。

案内サインと観光

観光客もそこで暮らしている住民も幸せに感じることができれば、持続的な観光地になると思います。

岡山市への外国人観光客数は、2014年度21,131人から2016年度には44,594人と倍増。内訳は多い順に、台湾、香港、韓国、中国、フランス、タイ…です。観光庁は2014年度に多言語対応のためのガイドラインを出しており、「禁止・注意を促す案内サイン」などの英語表記やピクトグラム活用を促しています。岡山市も対応をすべきでは。「岡山歴史のまちしるべ」の多言語化を拡大してほしい。

市長：岡山城のリニューアル等に際しても、ガイドラインを有効に活用しながら、外国人に優しい案内表示に努めたい。

政策局長：「岡山歴史のまちしるべ」5基につけた多言語QRコードの拡大を図りたい。



1 頁に書いたチータさんと、岡山城・後樂園に。彼女が驚いたのは外国人の多さ、印象に残ったのはスワンボート。

就学前教育と多文化共生

市内に生活する外国人が増えるなか、保育園や幼稚園にも様々なルーツをもつ子どもが通っています。言葉や文化の壁を越える工夫が必要です。

保育・幼児教育担当局長：両親とも外国人、またはどちらかが外国人である子どもの人数は、2017年4月時点においてわかっている範囲では、公立保育園・認定こども園（全52園）で120人、公立幼稚園（全60園）で13人です。

保育園や認定こども園においては、給食を宗教上の理由で食べられない場合は、保護者に話を聞きながら、除去食などの対応をしています。また、家庭支援担当職員が派遣され（3ヶ月です）、担任と一緒に細やかな言葉がけ等の対応をしています。

国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てることや、個別の支援を行うことは保育指針や幼稚園教育要領にあり、公私立ともに説明会等で話をしています。

1 思ったより、公立保育園では対応されていました。私立認可保育園については人数把握も支援保育士の派遣もありません。公立では幼稚園での充実が求められます。☆総社市では園との面談に通訳が同席します。入園案内の多言語化や保育園や子育て情報の紹介など、困っている外国人保護者は少なくないので、さらに支援を整えるべきです。

これはないでしょう ～国民健康保険料。7年連続引き上げに～

この4月から国民健康保険制度の運営主体の都道府県化が行われました。岡山市はこの10年間、一般会計からの政策的な繰入れを行って、保険料を据え置きましたが、この機に繰入れをなくすため、これから6年間かけて、毎年2.8億円、計19億円もの保険料を引き上げます。一人世帯で所得が200万円の場合、2018年度には6,325円、2019年度以降は平均8,080円の引き上げとなります（試算）。

国保は民間保険とは異なり、社会保障制度です。岡山市の場合、年間所得200万円以下の方が加入者の7割を占め、福祉的な要素が大きいです。岡山市のまちづくりとしての政策的な判断が行われるべきで、このような値上げを行うべきではありません。私は関連の予算や条例に反対しましたが、賛成多数で可決されました。

イノシシ・中山間地域

イノシシなどの鳥獣害対策は、長年の働きかけで、2016年度より捕獲補助金が増額され、鳥獣被害対策実施隊が作られました。2016年度には捕獲頭数は3,000頭と過去最大になりましたが、被害が減少している実感はありません。実施隊は被害地域からの要請があると動きますが、計画的に指導・助言・啓発にとりくむべきです。



岡山県発行「おかやまジビエガイド」

国はジビエ拡大にも力を入れ、農山村・中山間地域の所得にかえようとしています。地域の未来づくり推進事業の対象としてどのような形が考えられますか。

政策局長：捕獲した野生鳥獣の加工処理施設を運営し、加工まで行ったものをレストラン等へ販売する、商品開発とともに商品を生産する施設を運営し販売活動をするなどがあります。市としては、計画検討などへの支援を行いたい。

1 国も県もこの間、組織改変をして、取り組みを強化しています。岡山市も（仮称）イノシシ・シカ室を設けて専任職員を配置し、計画的なとりくみを。

岡山北斎場（新斎場）

岡山市北区富吉に建設予定の岡山北斎場は、今年10月に事業の落札者が決定し、12月に建設工事請負契約の本契約が締結されます。事業者の選定は総合評価一般競争入札で行われ、その過程で、学識経験者（環境、建築）の意見を聞く予定ということ。事後の氏名公表を求めました。

建設予定地に隣接する小畑町内会の皆さんは同意をしておられませんが、答弁によると、2017年度には学区全体の説明会だけで、個別の説明をしていないということ。真摯な話し合いが必要です。

私は候補地が決定されるプロセス、都市計画決定前に賛成地域にのみ補助金を配分してきたあり方は民主的でないと思います。また、産廃最終処分場跡地に建設されることの安全性・妥当性には疑問があります。2018年度予算には関連経費として3億円以上が計上されており、予算案に反対しました。



東日本大震災から7年。「3.11への祈りおかやま2018」追悼と脱原発のつどいに参加しました。

☆2018年度「いいね」の予算や条例から

*ヘルプマークの普及・促進事業

聴覚障がい者、内部障がい者、妊婦の方など、一見助けが必要とはわからない方が周囲に理解や助けをもとめる手段として、ストラップ型の「ヘルプマーク」が配布されます。



*市民協働推進モデル事業→一般施策化

「里親を促進するための里親制度の普及啓発及び委託事業」と「慢性疾病を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流を支援する事業」が2年間のモデル事業を経て一般施策化されました。

*岡山市手話言語条例

手話に対する市民の皆さんの理解を深め、コミュニケーション手段としての普及をはかる条例が制定されました。

*地域の未来づくり推進事業

中山間・周辺地域において、持続可能な地域づくりを目的に、NPO法人や企業、地域住民が行う地域課題解決にとりくむための活動等に対する支援が始まります。

*性の多様性の理解促進にむけて

性的マイノリティの方の人権確立にむけて、条例整備のための検討が行われます。

*学校空調設備整備にむけて

中学校の普通教室に空調設備整備が始まります。

*特色ある区づくりにむけて

区役所が主体になって身近なまちづくりや地域課題の解決にとりくむために、各区に即した事業が推進されます。

*コミュニティ活動推進備品修繕等助成が引き続き

***特定検診のワンコイン化（500円）**
自己負担金2,050円から500円に。受診率の向上を促します。

*その他にも

子どもに関する家庭等からの相談や子ども総合相談所からの受託指導を行う、休日・夜間対応が可能な「児童家庭支援センター」の運営が始まります。こどもの貧困対策の一環です。